

## 設立～モータリゼーション時代の到来

輸入機械工具商を営んでいた創業者前田軍治の「自分たちの手でクオリティの高い工具を作りたい」という思いから、1938年(昭和13年)に前田金属工業株式会社が誕生しました。設立当初は、主に自動車、船舶、航空機向け工具を生産しておりましたが、戦時中の軍需用工具生産を経て、終戦後に民需用工具生産に復帰し、その後のモータリゼーション時代の到来とともに自動車用工具の生産を開始しました。1954年(昭和24年)には通産省優良自動車工具A級の認定を受けるとともに、同年の第1回自動車ショー(東京モーターショーの前身)に出展。そのクオリティに対して、自動車業界からも高い評価を得ました。



1954年頃の製品カタログ



1000t高速巨大プレス

西暦	和暦	会社のできごと
1925	大正十四年	前田軍治商店開設
1932	昭和七年	業績の発展により大阪市西区立売堀へ移転 (大阪市福島区上福島南2 社長 前田軍治)
1938	昭和十三年	<b>前田金属工業株式会社設立</b> 資本金30万円
1941	昭和一六年	伊丹工場建設(兵庫県尼崎市園田町)
1943	昭和一八年	本社を大阪市北区(宇治電ビル)へ移転/深江工場拡張 資本金150万円に増資
1945	昭和二〇年	終戦により生産品目を民需に切替
1947	昭和二年	本社を深江工場に復帰、伊丹工場閉鎖
1954	昭和二九年	第1回自動車ショーに出展(東京モーターショーの前身)
1955	昭和三〇年	ソケットレンチ、リリーマ、カッタ通産省優良自動車工具A級に認定
1958	昭和三三年	ソケット、エクステンションバーがJIS表示許可工場の認可
1959	昭和三四年	スピンナ形スライドラチェットハンドルがJIS表示許可
1962	昭和三七年	東京営業所開設(東京都港区)
1963	昭和三八年	ソケット用ユニバーサルジョイントがJIS表示許可
1964	昭和三九年	株式を大阪証券取引所第二部に上場
1967	昭和四二年	1000t高速巨大プレス導入(米国製)
1969	昭和四四年	めがねレンチJIS表示許可 資本金170百万円に増資
1970	昭和四五年	スバナ(ヤリ形、両口)のJIS表示許可
1971	昭和四六年	パワールレンチを開発
1973	昭和四八年	札幌出張所(札幌市北4条)福岡出張所(福岡市西区)を開発
1975	昭和五〇年	空動式シャーレンチを製鋼メーカーとの共同開発で製品化
1976	昭和五一年	手動式シャーレンチをホルトメーカーとの共同開発で製品化
1977	昭和五二年	取締役会長に前田軍治・取締役社長に屋敷定雄が就任
1982	昭和五七年	名古屋出張所(名古屋千種区)を開発
		取締役社長に米田豊が就任 資本金605百万円に増資
		大阪府富田林市に富田林工場を建設
		電動パワールレンチの開発、製品化
		広島出張所を開発
		仙台出張所を開発

### 生産・販売品目

- 機械工具製造販売
- 民需用、軍需用工具(38)
- ソケットレンチ、単能レンチ(38)
- スパイラルリリーマ(40)
- バルブシートカッター(40)
- ガレージジャッキ(45)
- ラジオ用スピーカー(伊丹工場)(45)
- 自動車用工具(深江工場)(45)
- ホイールナットレンチ(53)
- めがねレンチ(61)
- 両口スバナ(62)
- ゴールドスバナ(65)
- コンビネーションプライヤ(66)
- パワールレンチ(67)
- 空動インパクトレンチ(70)
- 手動式シャーレンチ(71)
- 電動締付機用増力機(77)
- パワールレンチPシリーズ(74)
- ヘキサゴンソケット(75)
- シャーレンチSシリーズ(81)
- 電動式シャーレンチ(75)
- サイドダイナミックレンチ(81)
- 携帯工具セット(76)

会社のできごと
上海事変勃発/日本大使館開始/515事件
軍需工業動員法発動
太平洋戦争始まる
第1回学徒出陣
太平洋戦争終わる
日本国憲法発布
第1回自動車ショー開催
東京タワー完成
メートル法実施
皇太子(今上天皇)ご成婚
不当景品類・不当表示防止法施行
米国ケネディ大統領暗殺
日米間で初のテレビ宇宙中継
東京オリンピック開幕/東海道新幹線開通
欧州共同体(EEC)発足
人類初の月面着陸
大阪万国博覧会開幕
米国のドルショック
第1次オイルショック原油引き上げ
ベトナム戦争終結
ロッキード事件発覚
王選手75号ホームラン新記録
米国大統領レーガン就任
ホテルニュージャパン火災事故